

シングルタイプ
インポートモデル(平成26年10月作成)

※本製品は輸入車用HIDキットです。国産車への装着はお止め下さい。

※本製品を取付けの際は、必ず適合表を確認してください。
※純正ヘッドライト・フォグライト以外(社外ヘッドライト、社外フォグライト)に取付けた場合、灯具が熱により変形する恐れがあります。
純正ヘッドライト・フォグライト以外の取付けについては、適合外のため保証対象外になります。ご了承の程、宜しくお願い致します。
※車検対応のH.I.Dシステムを装着した場合、配光、色の問題により車検に通らない場合があります。その際は、ノーマルバルブに交換し、車検を行ってください。

ご注意

この度は、HIDシステムをお買い上げいただきましてありがとうございます。正しく、安全にお使いいただくため、ご使用前には、本「取付要領書」をよくお読みください。また、本製品をご使用いただく間、必ずお手元に置いてご活用ください。



本製品の取付け、配線には専門の技術と経験が必要です。安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

装着前に、必ずご確認ください。 ※下記、内容を予めご理解の上、ご使用ください。

- 1)本製品はエンジン始動時にオートライトモード(オートライトスイッチON)になっていると、HIDが点灯しない場合があります。これは始動時の車輛側電力供給の低下などの要因が関係します。不点灯になった場合、一旦、スイッチをOFFにして再度ONにするとHIDは点灯します。※エンジンを止める際にオートライトモードを解除しておく事をお勧めします。
- 2)コーナリングライト装着車に取付けの場合、HIDが点滅など正常に動作しない場合があります。
- 3)アイドリングストップ機能装着車への装着についてアイドリングストップ機能が付いたお車へHIDキットを装着される場合は、バッテリー電源線を実際に電力の取れるメインバッテリーへの装着をお願いします。
- 4)本製品を装着する事により球切れ警告灯本来の機能はいたしません。
- 5)ランプユニットの樹脂カバー、ゴムカバーへ25mmの丸穴をあけ、カバーと防水ゴムキャップの接合部にシール材などで防水処理を行う作業が必要となります。カバーのない車種はこの作業が省略されます。
- 6)本製品は輸入車のヘッドライトやフォグライトを正常に点灯させるシステムです。またメーター内に表示される球切れ警告灯を回避させる為の商品です。
- 7)シェードまでの距離が車両により個体差がある為、装着前には必ず、P2シェードまでの距離を参照し、測定してから作業を行ってください。
- 8)輸入車にHIDを装着すると、レンズ又はリフレクターが白濁したり曇ったりする可能性が有ります。

※一部の車両で本製品を取付けしても球切れ警告灯をキャンセルできない場合があります。予め、ご了承の程、宜しくお願いいたします。

※本製品は、汎用品として発売しておりますが、取付に関しては車種別適合表をご確認の上、作業してください。適合の取れていない車種や部位に装着を頂いた場合は、保証の対象外となります。予めご了承ください。

仕様

[H.I.D バルブ]

- タイプ : H1・H7・HB3/4・H9/11
- 消費電力 : 35w
- ※定格入力確保できない車両への取付けは行わないでください。

[バラスト]

- 定格入力電圧 : DC 12v
- 定格出力電圧、電流 : 85v、35w

TMY CORPORATION 自動車用品部 TEL 03-3696-0620
作業を行う前には、必ず車両の電源コネクターの検電を行ってから作業を始めてください。

構成部品

○基本セット部品	②RG IM イグナイタ 2個 (RGH-CBP11)	③RG IM インバータ 2個 (RGH-CBP10)	④イグナイタステー 2個	⑤インバータステー 2個
①バルブ 2個				
⑥コルゲートチューブ 2個	⑦インシュロック 大4個/小4個	⑧スペアヒューズ (15A) 1個	⑨接点グリス 1個 (RGH-CB210)	⑩ RG IMハーネス 2個 (RGH-CB102)
⑪ リレー 2個 (RGH-CB007)	⑫ RG IM コンデンサー2000 2個 (RGH-CB104)	⑬ RG IM コンデンサー1000 2個 (RGH-CB105)	⑭ RG IM キャンセラー 2個 (RGH-CB101)	⑮ インバータ電源線 2個 (RGH-CBP12)

○OH1, H7 付属品

⑯ RG IM
アースハーネス 2個
(RGH-CB103)

○OH8 付属品

⑰ HB用スペーサー 2個
(ステン)

▲ 安全上のご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

- 1** このH.I.Dシステムは高電圧(約2万ボルト)を発生しますので取扱い(取付け)には充分ご注意ください。
取付作業を行う前に、商品(インバータ・イグナイタ・H.I.Dバルブ)の状態を点検してください。
※商品(インバータ・イグナイタ・H.I.Dバルブ)に損傷がある場合や商品を落下させた場合は直ちに作業を中止してください。
- 2** ヘッドライト点灯中や消灯直後は、手や肌などで触れたり、洗車など直接水をかけないでください。
レンズやランプボディーが熱いのでヤケドや温度差によるレンズ割れの原因となります。
※洗車やヘッドライト付近に触れる場合は、十分に冷却した後、作業をおこなってください。
- 3** ヘッドライトの光軸が適正位置であるかを必ずご確認ください。
このシステムは通常のハロゲンバルブより明るさが増すため、光軸が合っていないか、故意に光軸を上に向けたりすると事故を誘発する恐れがあります。
- 4** 目が痛くなったり、視力障害の原因となります。
点灯中の光を間近で見つめないでください。
- 5** 感電の恐れがありますので、バルブを接続しない状態で電源を入れないでください。
H.I.Dバルブをイグナイタへ接続しない状態で、ヘッドライトスイッチをオンにすると接続端子部に高電圧が発生し、感電する恐れがあります。
また、この状態でヘッドライトスイッチをオフにしても高電圧が残留し、感電する恐れがあります。

使用上のご注意

- 1** 停車中(信号待ちなど)の点灯/消灯は頻繁に行わないでください。
点灯/消灯をくり返すことによりバルブ内部の電極が磨耗し短寿命や不点灯など、システムがトラブルを起す原因となります。
注) ヘッドライトスイッチの点灯/消灯を短い間隔でくり返すと点灯しなくなる場合があります。
これは、バラストの安全装置が作動して起こるもので故障ではありません。
この症状がでた場合、数秒間隔を置いてから再点灯を行ってください。(バラスト内の残留電気が抜けるまで起動しません。)
- 2** 下記症状は使用環境や状況によって発生するもので製品不良によるものではありません。
この症状はバラストの昇圧差やバラストの個体差による症状でクレームの対象外となりますので、ご理解の上ご使用ください。
1) 点灯直後や再点灯時に約10~20秒間、赤味を帯びた色や青白い色など、通常の点灯色にならないことがあります。
2) 左右のヘッドライトが同時に点灯しないことがあります。
3) 点灯時左右の照射光が異なる場合がありますが、これは商品の個体差によるものでクレームの対象外ですので、ご理解の上ご使用ください。約100時間ほどご使用していただくともバルブの色が安定してきます。
- 3** 一部の車両に於いて警告灯を回避出来なかったりHIDバルブが正常に点灯しない場合があります。
本製品を取付けしても一部の車両で球切れ警告灯が点灯したり、HIDバルブが正常に点灯しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- 4** 改造、分解等は絶対に行わないでください。
この商品は、精密な電子回路の集合体です。システムが作動中高電圧が発生しますので、インバータ・イグナイタ・H.I.Dバルブ等は絶対に改造・分解は行わないでください。また、改造・分解・不当な修理に起因して生じた故障および損傷に於いては、製品保証の対象外となりますのでご了承ください。

取扱(取付)上のご注意

◇注意事項◇

装着作業を行う際は以下の項目を必ずお守りください。

※以下の項目をお守りいただけずに発生したトラブルに関してはクレームとしてはお受けできませんので予めご了承ください。

◎取付作業開始前に作動確認を行ってください。バルブパッケージを未開封状態でインバータ・イグナイタを接続し点灯確認を行ってください。バルブパッケージ開封前に破損箇所がないか確認してください。

※バルブパッケージ開封後はクレームとしてはお受け出来ません。(但し、製品上のトラブルは除く)

※点灯テストは、P3のH.I.Dバルブ点灯テスト要領をご参照ください。

◎車両により、シェードまでの距離に個体差がある為、バルブ取付作業を行う前には、シェードの奥行きを測定を行ってください。

※奥行き測定方法は、ノギスなどでバルブ取付面を基準面とし、そこからシェードやレンズまでの距離を測定してください。

●H1・H7タイプ測定距離が53mm以上

●HB3/4タイプ測定距離が58mm以上

●H9/11タイプ測定距離が52.5mm以上

であれば問題ありませんが、上記寸法以下の場合は、装着作業を中止してください。

◎H.I.Dバルブの装着はヘッドライトを外して行ってください。

※H.I.Dバルブはとてもデリケートです。装着作業を行う際は必ずヘッドライトを車両から取外し、慎重に作業を行ってください。

◎車両のヘッドライトヒューズ容量を確認してください。

※システム起動時に電気容量が必要となりますので、車両のヘッドライトヒューズが15A以下の場合は15Aヒューズ(最大20A)と交換を行ってください。

◎イグナイタ・インバータの取扱いは慎重に行ってください。

※精密な電子回路の集合体です。落としたり、配線を引っ張ったりしないでください。システムが作動していると高電圧が発生しておりますので装着・点検作業を行う際は必ずバッテリー端子を取外した状態で行ってください。また、イグナイタ・インバータは水のかかりにくいエンジンルーム内へ確実に固定してください。

本製品は、始動時に約20,000Vの高電圧を起動させるため、ノイズが発生する場合があります。車両への取付け位置によっては、ノイズの影響によりラジオ等にもノイズが入る場合があります。

◎減光システム装着車へのお取扱いはできません。また、純正のオートライト機能が正常に作動しない場合があります。

※一般的な減光システムは、出力電圧を自動で調整(上下)することでライトの光量調整(減光)をおこなう装置です。

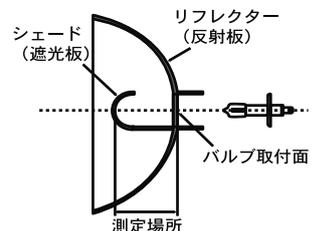
減光システムの作動に伴う最低起動電圧(10ボルト)を下回り、電圧不足により不点灯やシステムの破損の原因となります。

オートライトコントローラーは、車外の明るさに応じて自動的に車両モールランプ及びヘッドランプを点灯または消灯させる装置です。

HIDシステムとの併用した場合は、オートライトコントローラーの作動に伴う点灯/消灯の繰り返しにより、不点灯やシステムの破損の原因となります。

◎耐久年数の過ぎているバッテリーでご使用されると、バッテリーの電圧低下によりHIDの不点灯やシステムの不具合が起こる可能性があるため、バッテリーの交換をお勧めいたします。また、電装品を多く取付け、ご使用されていると、バッテリーに負担がかかりHIDシステムが正常に作動しない場合があります。

◎本製品と電流・電圧センサー機能が搭載されている盗難警報装置を同時装着を行うと誤作動を起こす場合があります。



●おかしいな？と思ったら！！

？ご使用中に不点灯が発生した場合、下記手順の簡易点検を行ってください。

- 1) 速やかに車両を安全な場所へ移動してください。
- 2) ヘッドライトスイッチを消灯状態にし、数秒後再点灯を行ってください。
- 3) 上記作業を行っても症状が改善されない場合は、10～20分程度全ての照明スイッチ(ハザードは除く)を消灯させた後、再点灯を行ってください。

※上記点検を行って正常に戻ればバラストの安全回路が作動して発生する症状なので、そのままご使用されても問題はありません。もし、症状が改善されない場合やその他のトラブルが発生した場合は、最寄りの駐車設備のある場所へ車両を移動し速やかに、購入・取付けを行った販売店へご相談ください。

●必ず、バッテリーのマイナスケーブルを外す。

※ラジオのプリセットチューニングなど電装品のメモリーを控えておく。《車種によりバッテリーケーブルを外すと車両側の制御機能が誤作動する場合があります。詳しくは車両の取扱マニュアルをご参照ください。》



●車両のコネクターを外す際はリード線を引っ張らず、コネクター本体を持ってロックを外すこと。

※ハーネス断線を防止する。



●部品の取付けや、外したフィニッシャー類を取り付ける際は、裏側のハーネスを引っかけたりかみ込んだりしないこと。

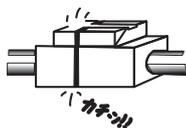
※ハーネス断線を防止する。

●ランプ、ホーン、ワイパー、オーディオなどの車両電装品が正常に作動するか確認する。

※取付け後の修復チェックを確実にを行う。

●コネクターやターミナル端子は、確実に接続の事。

※接続不良を防止する。



●車両のワイヤーリングハーネスを強く引っ張らないこと。

※コネクター外れや断線を防ぐ。



●ボルト、ナット、の締め付けには、寸法の合った工具を利用して確実にを行う。

※締め付けトルクの指示がある部位は規定トルクで締め付ける。

●ハーネス(配線)配索の際は車両のワイヤリングハーネスに沿ってまとめたり、クランプを使用して固定しづらぶらさせない。

※イグニタ、バルブ間の配線を絶対に結実しないでください。



●ハーネス配索後、修復前に取り付けた部品の作動チェックを行うこと。

※誤配線の防止。

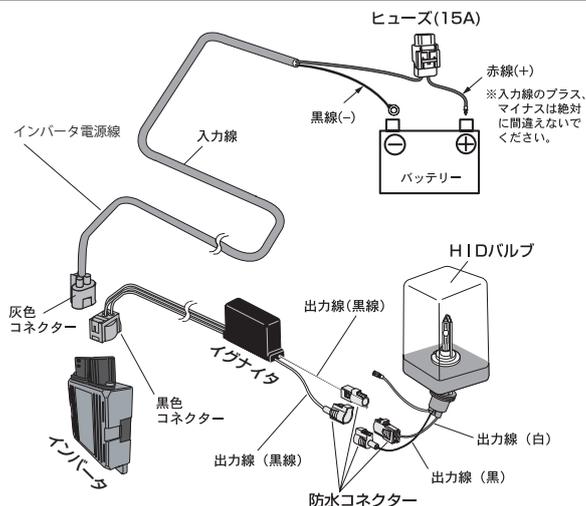
H.I.Dバルブ点灯テスト要領 ※開封前に必ず実施してください。

HIDバルブ点灯テスト要領

1. 右図に従ってHIDバルブの開封前に、バルブハーネスをイグニタやインバータの配線と接続し、バッテリー端子に仮付けしてください。
2. HIDバルブの点灯が確認後、IMハーネス、IMキャンセラーを使い車両取付け作業に進んでください。

ご注意

点灯テスト時、取付けにインバータ及び、バーナー先端をそれぞれプラス電位、アース部に接触、近づけたことによるインバータの地絡(ショート)故障にご注意ください。
上記、要因による故障は、保証対象となりませんのでご注意ください。



《ご注意》

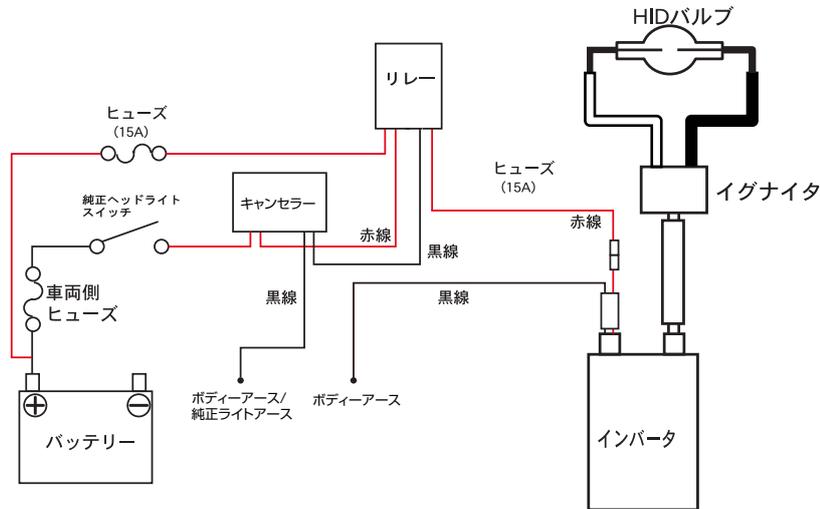
- ◎バッテリーへ接続する際、プラス(+)マイナス(-)を絶対に間違えないでください。
- ◎点灯テストは、1分以内で行ってください。
- ◎装着前のテストを怠りケースの封印を開封した場合、及び作業中に発生した破損等はクレームの対象外となりますのでご了承ください。
- ◎破損や作動不良の原因となりますので、インバータケースにバッテリーの**プラス電位**が触れないようにご注意ください。
- ◎点灯テストの際、バーナー先端をアース部(車両シャーシ、バッテリーマイナス)に近づけた状態で点灯を行いますとバラストの故障の原因となります。

取付概要・接続構成図

システム概要

取付概要

- ◎取付作業を行う前に、システム全体の取付概要を理解してください。
- ◎取付の際には取扱い説明書及び車両メーカー制作の配線図に従って十分に注意して作業を行ってください。



トラブルシューティング

◎全く点灯しない

ヘッドランプスイッチはONになっていますか？

NO
➡

ヘッドランプスイッチをONにしてください。

各コネクタは確実に接続されていますか？

NO
➡

コネクタを確実に接続してください。

アースは確実に接続されていますか？

NO
➡

アース端子を確実に接続してください。

IMキャンセラー、IMコンデンサーは正常に接続していますか？

NO
➡

P7.P8を参照し、接続してください。

H.I.Dシステムに異常が発生していますので取付を行った販売店（発売元）で点検をお受けください。

◎片側が点灯しない

各コネクタは確実に接続されていますか？

NO
➡

コネクタを確実に接続してください。

アースは確実に接続されていますか？

NO
➡

アース端子を確実に接続してください。

点灯するライト側のインバータを点灯しない側へ付け替えてください。

NO
➡

バルブにトラブルが発生しています。（販売店にて点検を受けてください。）

片側のH.I.Dシステムに異常が発生していますので取付を行った販売店（発売元）で点検をお受けください。

《取付手順》

1. ランプユニット脱着

バッテリーからマイナス端子を取外してから、取付け作業を始めてください。
車両からヘッドライトASSYを取外してください。ランプユニットを脱着し作業を行わないと、商品破損の原因となります。
※車種により脱着方法が異なりますので、脱着要領は車両ごとの整備解説書をご参照ください。



推奨

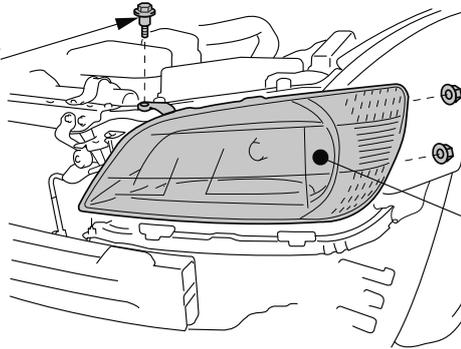
HIDバルブを取付けの際は、ランプユニットを脱着し作業を行なうようにしてください。



推奨

フォグライトへ取付けの場合、メーカー車両整備書を参照のうえ、作業を行なう事。

ランプユニット
固定ボルト



ランプユニット
固定ボルト

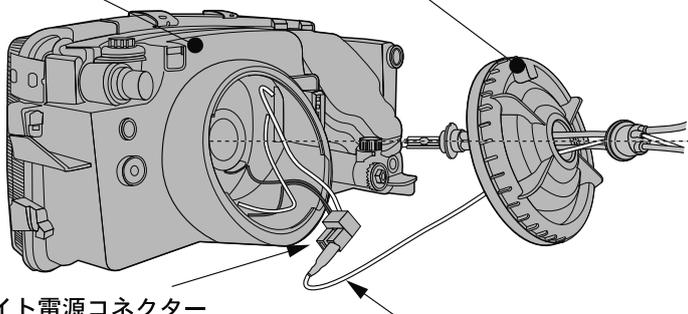
ランプユニット

2. H.I.Dバルブ取付け

純正ハロゲンバルブをヘッドライトから取外し、そこへH.I.Dバルブを取付けてください。

ランプユニット

ランプユニット樹脂カバー



ヘッドライト電源コネクタ

H.I.Dシステム電源線(入力ハーネス)

《電源線の接続》

システムの起動信号線(赤線)と車両のバルブ電源線(+側)の接続は赤線の平端子側をバルブ電源端子またはカプラーに接続後、絶縁テープ等で必ず保護を行い、防水カバーを元の状態に戻してください。
また、HB3/4、H9/11には、専用の電源コネクタになっていますので、車両側カプラーと直接接続してください。
車両側コネクタの極性をテスター等で確認の上、接続してください。
※注意H1バルブは、ユニット側バルブアースを必ず取り外し絶縁処理を行ってください。



アドバイス

※純正バルブコネクタとシステム起動信号を接続する際は、テスターなどで(+)電源の確認を必ず行ってください。
※配線接続後、必ず絶縁処理を行ってください。

《ランプユニット樹脂カバーの場合》

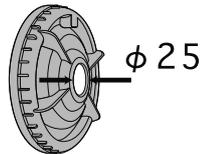
ランプユニットの樹脂カバーへ(H.I.Dバルブの真後ろ部分)25mmの丸穴をあけてください。

樹脂カバーにあげた穴にH.I.Dバルブから出ている配線を通した後、バルブにセットされている防水ゴムキャップを樹脂カバーへ取付け、樹脂カバーと防水ゴムキャップの接合部にシール材などを使用し防水処理を行ってください。



アドバイス

樹脂製の防水カバーのない車種は、この作業は省略されます。



《H1に装着する場合》

①ランプユニットのバルブ固定にある、アース線を必ず取外してください。

※また、取外したアース線は必ず絶縁処理を行ってください。

②このシステム(H1タイプ)は、ハロゲンバルブ(H1)よりもガラス部分が若干太いため、車種によりバルブが入りにくい(バルブのガラス部とバルブ固定部が干渉する)場合があります。この様な車両の場合は、必ず(1)の加工を行った上でバルブの取付けを行ってください。

【ご注意】

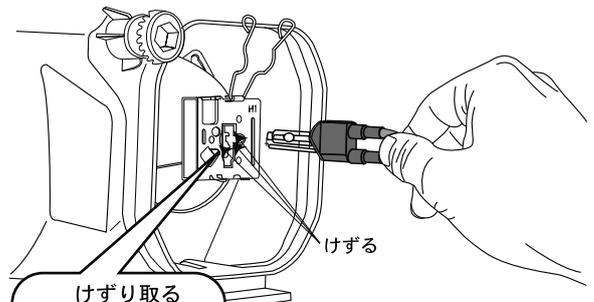
上記に該当する車両に無加工で装着した場合、バルブ本体を破損させる可能性がありますので、充分ご注意ください。

◇H.I.Dバルブを装着する前にヘッドライトユニットのバルブ取付部の加工を行ってください。

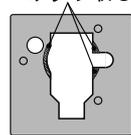
(1)H.I.Dバルブのガラス部分が入る穴をモールビットなどでガラス部分が当たらない程度に若干広げてください。

※加工を行う際はユニット内部に金属粉などが入らない様、ご注意ください。

(2)H.I.Dバルブの取り付けは、バルブの配線部分を手で持って行ってください。
※バルブ取付部が2重になっておりますので手前側と奥側の両方を加工してください。



けずり取る



【拡大図】

《バルブ取付け穴加工工具(参考)》

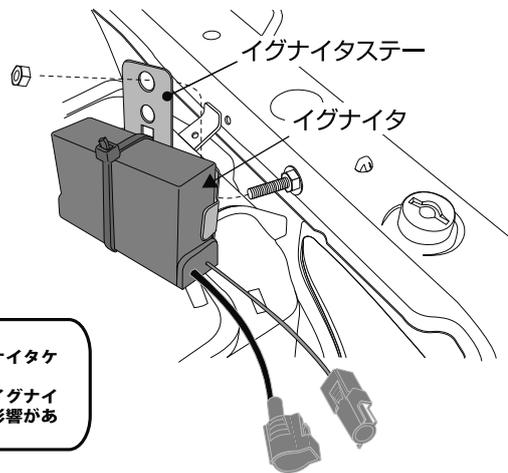


《名称：モールビット》

3.イグナイタ

《イグナイタの取付》

キットに付属のイグナイタ用汎用ステーなどを使用し、イグナイタ本体を付属のインシュロックを使用し、図の様にステーへ固定した後、イグナイタ本体をヘッドライト周辺また、高温になり易い部分や水などがかかり易い場所を避け確実に固定できる場所を選定し、車体へ確実に固定してください。



ご注意

- ※機能低下や破損の原因となりますので、イグナイタ本体をインシュロック等で固定する際、イグナイタケースが変形するほど強く締め付けしないでください。
- ※イグナイタ、インバータは、始動時に高電圧を発生する為、ノイズが発生する場合があります、イグナイタ、インバータの位置や車両によっては、ノイズが車両（コンピュータ、オーディオ等）に影響がある場合があります。

4.インバータ取付け

《インバータの取付》

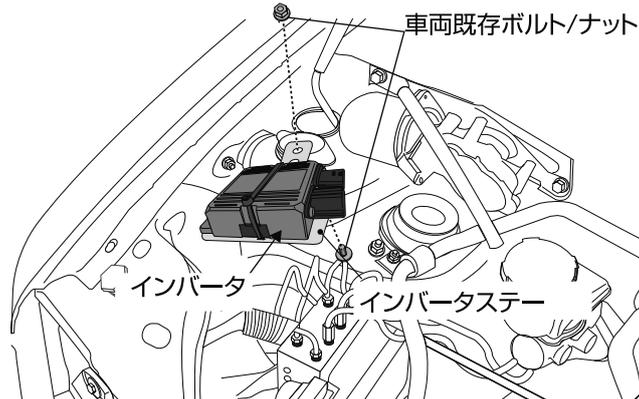
【汎用ステーを使用する場合】

①取付ステーの加工

ステーを使用し、インバータ本体をヘッドライト周辺また、車体の高温になり易い部分や水などが、かかり易い場所を避ける車体側で確実に固定できる場所を選定し、その固定場所に合うようステーを加工してください。

②インバータ取付け（汎用ステー使用時）

加工を行った取付けステーにインバータ本体を両面テープやキットに付属されているインシュロックなどでステーに確実に固定してください。インバータステー本体を車体の高温になり易い部分や水などが、かかり易い場所を避け確実に固定してください。



アドバイス

- ※インバータユニットは電子部品を使用した精密部品の集合体です。車両への取り付けは、ガタツキなどが無い様確実に固定を行ってください。
- ※インバータユニットの作動温度領域は、-30℃～+80℃以内です。極端に温度が上昇する様な場所(ラジエーターやエンジンなど)への取付はしないでください。
- ※インバータケースにバッテリーや他の電子機器のプラス電位が触れない様ご注意ください。

【コネクター接続手順】次ページご参照の上、配線を接続してください。

◇H.I.Dバルブ⇔バラスト間 ◇バラスト-バルブ間のハーネスは束ねないでください。

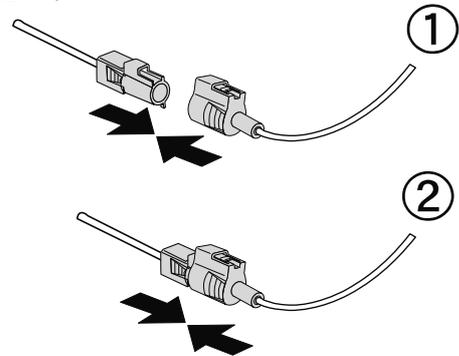
コネクター本体(オス・メス)を‘カチ’とロックするまで押し込み確実に接続してください。

《配線の接続》

※正しく接続されていないと製品不具合の原因になります。

- ①入力ハーネス、IMキャンセラー、IMハーネス、バラスト、バルブの順に配線を接続してください。※注意1
- ②車両側ライトコネクターの極性を確認した上で、極性を間違わずに各配線を確実に接続してください。
- ③バラスト接続のコネクターは”カチッ”とロックするまで差し込み、確実に接続してください。

注意1 リレー、ヒューズケースは必ず、ハーネスが下側に向くように、インシュロックやボルトで固定してください。カプラー部に必ずグリスアップを行う事。グリスアップを行う事によりカプラー部の防滴対策、端子防錆対策になります。リレー、ヒューズケースは、車体の高温になる場所や水などがかかり易い場所を避け取付けてください。



H1/H7に装着する場合

◎ライトスイッチがOFFになっているか確認の上、作業を行ってください。

下記の取付要領図を参考に、IMハーネス、IMキャンセラーより出ているハーネスをそれぞれ結線してください。

- ①赤色線:インバータ電源線(赤線)に取付。
- ②黒色線:車体アース又は、バッテリーのマイナス端子に取付。
- ③赤色線:純正ロービームプラス入力線に取付。
- ④黒色線:アースハーネス線に取付。
- ⑤赤/白色線:IMキャンセラーの赤線に取付。
- ⑥黒色線:キャンセラーの黒線に取付。
- ⑦コネクタ:車輛コネクタに取付。
- ⑧黒色線:車輛ボディアースへ取付。
- ⑨赤色線:バッテリープラス端子に取付

エンジンを始動させてライトを点灯し、メーター内に警告灯表示が出ないこととライトが正常に作動するか確認を行ってください。

また、点灯確認を行い、警告灯表示が出る場合は**詳細図1**をご参照ください。

取付完了後、再度動作確認を行ってください。

イグナイターバルブ間のハーネスは、束ねないでください。
ノイズの発生や電圧降下を起こし故障の原因となります。

必ず検電器でプラスを確認し、接続を行ってください。
接続後は、必ず、ビニールテープ等で絶縁、防水処理を行ってください。

車両ヘッドライトコネクタへ接続 ⊕

逆接続注意!!

⊖ ボディアース

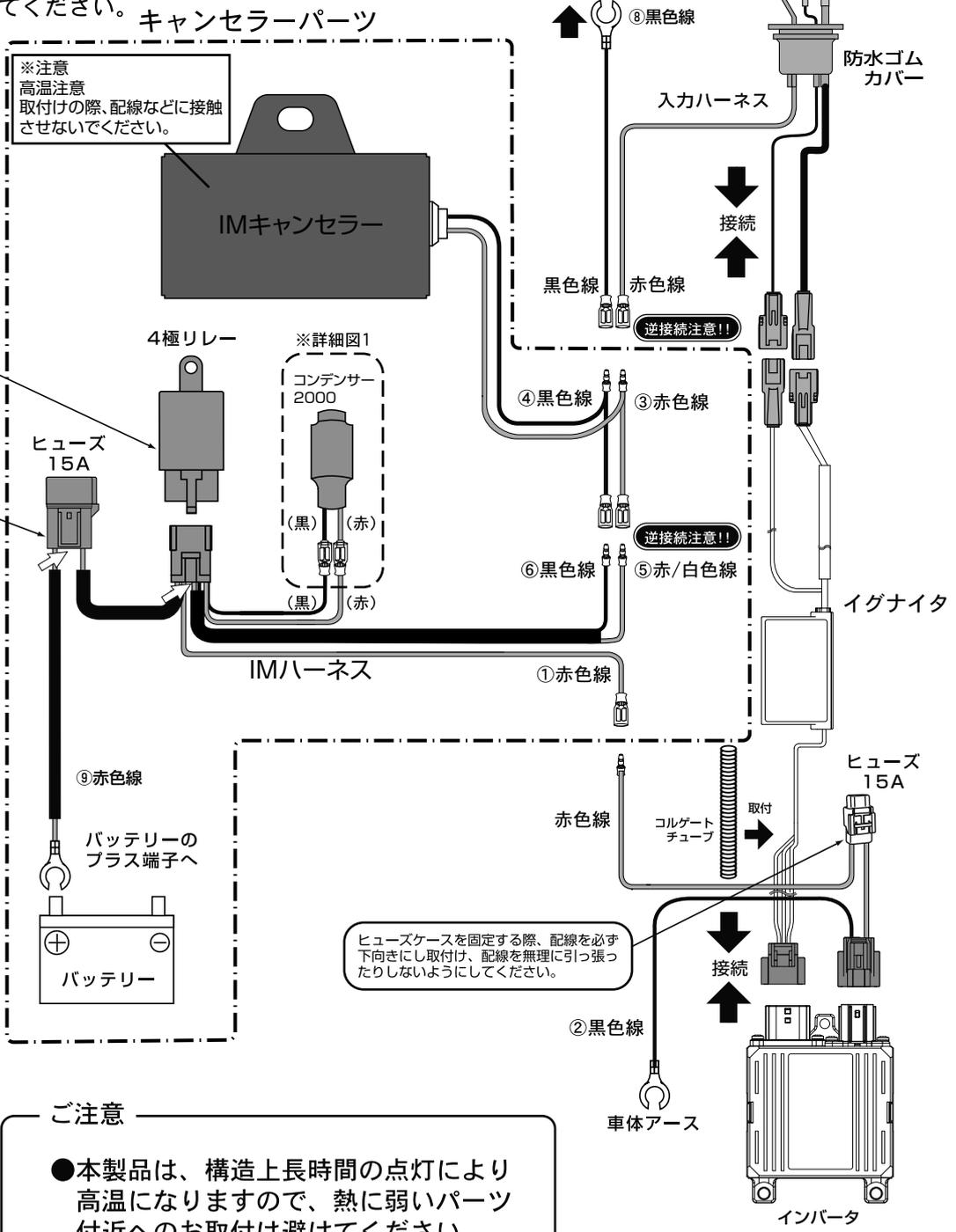
ご注意
③④⑤⑥⑦⑧へのプラス・マイナス極性を絶対に間違えないでください。
必ず、検電し確認後、接続してください。部品の破損になります。

リレーを取付ける場合、配線が下向きになる様に取付けを行ってください。

ヒューズケースを固定する際、配線を必ず下向きにし取付け、配線を無理に引っ張ったりしないようにしてください。

アドバイス
カプラーの防滴対応としてグリス塗布を行ってください。
※塗布ポイントは矢印です。⇨

※詳細図1
コンデンサー 2000 コンデンサー 1000
長い 短い
20 10
作動確認時に警告灯が表示した場合は、付属のコンデンサー1000に変更してください。
また、差し替え時の接続には**逆接続**にご注意してください。
※出荷時は、コンデンサー2000が接続しております。



ご注意

- 本製品は、構造上長時間の点灯により高温になりますので、熱に弱いパーツ付近へのお取付は避けてください。
- 本製品を装着する事により球切れ警告灯本来の機能は致しません。

HB3/4 / H9/11に装着する場合

◎ライトスイッチがOFFになっているか確認の上、作業を行ってください。

下記の取付要領図を参考に、IMハーネス、IMキャンセラーより出ているハーネスをそれぞれ結線してください。

- ①赤色線:インバータ電源線(赤線)に取付。
- ②黒色線:車体アース又は、バッテリーのマイナス端子に取付。
- ③赤色線:純正ロービームプラス入力線に取付。
- ④黒色線:純正ロービームマイナス入力線に取付。
- ⑤赤/白色線:IMキャンセラーの赤線に取付。
- ⑥黒色線:キャンセラーの黒線に取付。
- ⑦コネクタ:車輻コネクタに取付。
- ⑧赤色線:バッテリープラス端子に取付

エンジンを始動させてライトを点灯し、メーター内に警告灯表示が出ないこととライトが正常に作動するか確認を行ってください。

また、点灯確認を行い、警告灯表示が出る場合は**詳細図1**をご参照ください。

取付完了後、再度動作確認を行ってください。

イグナイターバルブ間のハーネスは、束ねないでください。
ノイズの発生や電圧降下を起こし故障の原因となります。

必ず検電器でプラスを確認し、接続を行ってください。
接続後は、必ず、ビニールテープ等で絶縁、防水処理を行ってください。

車両ヘッドライト
コネクタへ接続

接続する際、必ず、テスター等で検電を行ってください。
IMキャンセラーから出ている④赤線と車両側プラス/⑤黒線に車両側マイナスを接続してください。

